

全国大会×研究発表

第45回 全国高等学校 総合文化祭

— 紀の国わかやま総文2021 —

自然科学部門 研究発表会

2021年7月31日 会場：近畿大学生物理工学部

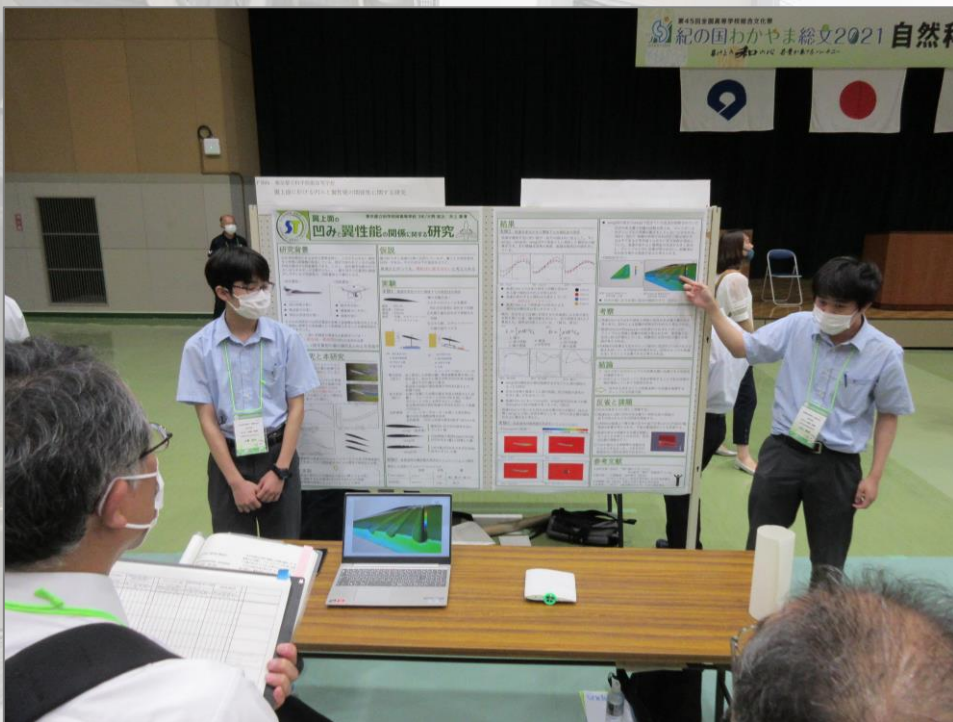


文化部のインターハイ“総文祭”に科学研究部・物理班が出場！

7月31日（土）に全国高等総合文化祭和歌山大会が和歌山県紀の川市の“近大マグロ”で有名な近畿大学生物理工学部で開催されました。科学研究部航空班の二人が昨年度の東京都予選で最優秀賞を受賞し、本大会で東京都代表としてポスター発表を行いました。発表の前には、ベニクラゲ再生生物学体験研究所を見学し、ベニクラゲを12回再生させたという元京都大学の久保田先生から、顕微鏡の映像を見ながらベニクラゲの再生について貴重なお話を伺いました。

ポスター発表は例年各都道府県代表が一堂に会しての発表ですが、コロナ禍の影響で3つのグループに分かれての発表となりました。今回の発表の持ち時間は4分間、質疑応答は2回に分かれ計8分間で行われ、細かく突っ込んだ質問が4名の審査員から次々飛んできました。久しぶりの大舞台で緊張の大波に飲まれそうになりながらも、今まで頑張ってきた総まとめとして全力を出し切った発表となりました。

来年の総文祭はいよいよ東京大会です。本校の多くの生徒たちが全国規模の大会に参加してくれることを期待しています。



「翼上面に於ける凹みと翼性能の関係性に関する研究」

3年 井上泰清 大野菜汰

ゴルフボールの凹みを翼に応用！風速の変化にとともなう揚力や抗力の変化を調査するとともに、流体シミュレーションで気流への影響を調べました。



審査の様子

緊張のひと時です。発表よりも質問に多くの時間が費やされました。



発表の様子

タブレットやパソコンを用いて分かりやすく発表を行いました。